

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
な か ま 編 集 係

〒285-0025
佐倉市鎗木町 198-3
電話 (043) 485-1801

2 ページ	「殿」の銅像に向かい合って	廣吉正毅	父の教え.....	山崎衡良
3 ページ	僕の見たカンボジアの現実	小西智也	佐倉市民カレッジ2年生の思い.....	山寄武則

生活雑感〜日記から〜

松 山 洋 子

九月十二日（水）雨

夕方、カレッジから帰るとラジオからとんでもないニュース。安倍総理大臣が辞任したという。我が耳を疑う。先日

日の参議院選挙で惨敗したにもかかわらず、いち早く続投を表明、組閣したばかり。海上自衛隊による米軍への燃料補給が十一月一日で期限切れ。与野党の議席数が逆転したことにより、延長法案の議決が不可能になったことが最大の理由という。民主党小沢代表との党首会談を断られたこと、健康状態が悪化したことも辞任の背景にあるという。がしかし、昨日所信表明演説を行ったばかり。今日は各党からの代表質問を受ける本会議の日。その直前の辞意表明とは余りに唐突ではないか。まさに前代未聞。職務放棄、責任逃避との声が専ら。

同感。これが我が日本国のリーダーの姿か。何と情けないや。

十月二日（火）曇り

平山郁夫展へ。先月十八日に続いて二度目の鑑賞である。四十年以上続けてきたシルクロードをたどる旅。その土地の風土、歴史、文化を通して培ったであろう祈りと愛が、そして哲学が、強いメッセージを伴って伝わってくる。金、銀、茶、青、緑など、独特の色遣いで表現される広大な砂漠、彼方まで連なる山々、心安らぐオアシス、列をなすラクダの群れ、人々の生活など、彼の創作意欲と活動のすばらしさが光る。自らの被爆体験と重ね、平和への祈りをテーマとした八十作品はどれも圧巻。心豊かな一日であった。

一月六日（日）晴れ

夫が出かけた。せっかく一人になれる貴重な日曜日。遠出もいい、たまには映画もいいかと胸弾む。ところが、悲しいかな、私の中の「主婦」がむくむくと頭をもたげる。絶好の洗濯日和、シーツ、タオルケットなど大物を洗おう。布団も思いっきり広げたい。そうそう、今日は月一回のアルミ缶のリサイクル日。ここ一ヶ月間のビールの消費は半端じゃない。空き缶の山だ。忘れずに出さなければ。志津にある携帯の専門店にも行きたい。古いデータを入れてもらうために。師走の「第九」以来さぼっていた発声練習も再開せねば。音程やリズムだけではない、歌詞だって正確に覚えなないと。これでも加齢による衰えと闘っているのだ。結局今日は、こんな予定をこなして終わってしまった。やれやれ……。あや（孫）と一緒に一時間ほど歩いただけでもよしとするか。

（編集委員）

「殿」の銅像に

向かい合って

―佐倉城址公園にて―

殿！ お久しぶりです。

凜として遠くを見晴るかすようにしておられる殿のご英姿。殿は今の世の中をご覧になって、「また何をか言わん」とでもそぶいておられるのではないでしょうか。赤心が身にたぎってまいります。

殿が江戸末期の激動を乗り切られたときのパワーの根源、あれはいつたいどこから来たのでしょうか。

まずは藩政改革を断行、文武を奨励して藩士の意識向上に力を注がれました。特に藩校の拡充、また諸藩に先駆けて蘭学の導入を図るなどして多くの人材を育成されました。次いで開国を唱え総領事ハリスと日米修好通商条約を結び交渉に全力を傾けられました。奇しくも今年はその調印から百五十年の節目の年に当たります。世間で攘夷が叫ばれる中、殿は幕府の老中首座

としてよく諸事を決断され鎖国を開国へと導いてくださいました。資源のない日本は貿易で国力をつけるしかない主導されたそのことは、今に至る「物づくり日本」の原点となりました。この殿の近代的センスがなかったら、その後の日本国はどうなっていたことでしょうか。他のアジアの国のように列強の植民地支配を受けていたかもしれません。まさに迷走しかけた日本を救ってくださったのが殿、殿なのです。

ところで現在の日本の政治は如何でしょうか。内政、外交ともに閉塞感に満ちています。この先日本の政治はどうなることでしょうか。できるものなら日本がこれからのように進んでいけばいいのか、お伺いしたいものです。

ここでいう「殿」とは、第十九代佐倉藩主堀田正睦公のことです。

（南臼井台 廣吉正毅）

父の教え

私は平成十九年八月の「なま」で「母の教え」を掲載していたとき、二、三の方々からご丁寧な励ましの電話を戴いたりして痛み入っている。幼少時に父からも多くのことを教えられたので姉妹編として「父の教え」も記述する。

小学五年頃から折々に教え諭されたことは沢山あるが以下の二件の教えは小学五年から社会人、七十五歳になった今日でも大変役に立っており、人生の指針になっている。

一、日に三省せよ

読んで字の如く、「今日一日を一秒たりとも無益に過ごしていないか？ 毎日毎日何回も反省しなさい」との教えである。私は、父から見ればこの位ダメでどうしようもない人間であつた。曹洞宗には修証義という漢字交じりの「ひらがな」で書いたお経がある。この中で「過ぎた一日は

どのような方法をもつてしても取り返すことはできない。無益に百歳生きたとしてもそれは価値のない毎日になってしまふ」と諭している。

小休止しているとき、電車に乗っているとき、寝る前などその気になりさえすれば「反省」はできるものである。

むだばなに

景色とられし

瓢かな

一茶

（むだばなは雌雄異花の雄花）

二、何事も気を入れてやれ。これも私を諫める言葉である。何をやるにも本気になつて取り組まないことに業を煮やしての忠告である。

「人の話を上の空で聞き、やることすること皆ピンぼけ」であつた。話す人の真正面に行き、その人の目を見て話を聞くように心がけている。精神一到何事か成らざらん

朱子（朱熹）
（井野 山崎衡良）

僕の見たカンボジアの現実

僕は、二〇〇七年三月一日より七泊八日でNPOテラルネットサンスが主催するカンボジア・スタディーツアーに参加しました。このツアーでは観光旅行で行くことができない場所を見学することができました。その中で特に印象に残った場所を紹介します。

まずはキリング・フィールドとトゥールスレン博物館です。キリング・フィールドの慰霊碑にはボル・ポトによって虐殺された人々の骨が保管されていました。とてもたくさんさんの骨があり、当時の無惨な状況がそのまま伝わってきました。この光景を見たら心が辛くなりました。絶対にこのようなことが起こってはいけないと思いました。またトゥールスレン博物館では、虐殺された人々の遺影がたくさんあり、虐殺のときに使われた道具などもありました。本当に当時の恐ろしさを思い知

らされました。

次はシエムリアップにある地雷撤去現場についてです。そこでは地雷撤去のデモを見学しました。デモを演じてくれた女性は、埋まっている地雷の土を取り除くだけでも汗

だくでした。実際地雷撤去は一歩間違えば事故につながる大変な作業なんだなと思いました。そして、実際に見たかった地雷の爆破処理作業をドキドキしながら見学しました。爆破した瞬間、大きな爆音が森中に響き、心臓に響きました。地雷被害者の人々のことを思うと、言葉にできないほど辛いことだと感じました。

今回カンボジアに行つて分かったことは、貧富の差があまりにも激すぎるということでした。僕がいつかまたカンボジアに行くときには、人々が少しでも良い環境の中で生活できる国になっていればいいなと思いました。

(井野中学校二年 小西智也)

佐倉市民カレッジ

二年生の思い

サラリーマン生活に終止符を打ち、暇をもて余す暮らしに突入したのは平成十八年の三月でした。しかし暇な日は長く続かず、五月には市民カレッジ入学、八月には趣味である造園の手伝いと忙しい生活が始まりました。決意を新たにしてから、あつという間に二年近くが過ぎました。

市民カレッジでの週一度の講義は、忘れかけていた知識欲を再び呼び覚ましてくれました。造園の手伝いでは、手入れをしたバラが見事に大輪の花をつけ感動したものです。もう一つ印象に残ったのは、市民カレッジでの「まちづくり」をテーマにしたグループ活動でした。自身で考えたテーマが採用されず、はぐれ狼

になった同じ立場の仲間十人で作った「堀田家廟所清掃隊」の活動です。廟所の清掃に加え、堀田家廟所である甚

大寺の由来、金毘羅さんの縁日の由来、堀田正睦公追遠の碑の漢文要約、何故廟所内に春日局の墓地を予定したのか等、少し詳しく掘り下げて調べることになりました。歴史に疎い私にも、追遠の碑の難解な漢文の要約という仕事を任され、久しぶりに真剣に資料と向き合いました。そして堀田正睦公が、老中首座の立場で開国を主導し、国の近代化に大きく貢献したことや、佐倉藩を貧濁から救い、藩政を改革したこと等を学びました。

十人の「寄せ集め」の仲間の合作で、グループ活動の成果物が立派にできあがりました。成果をあげるために皆で協力すれば、大きな力になることを改めて実感した今日の頃です。

堀田家廟所清掃後に一句

掃き清め

焚き火に偲ぶ

苔の廟

(王子台 山寄武則)

3月の黒板

平成20年度佐倉市民カレッジ受講生募集のお知らせ

健康で生きがいをもちながら、住みよいまちづくりを考え、地域で活動することを目指す学習です。1・2年生は「であい課程」で一般教養を学び、3・4年生は「専攻課程」で学びを深めます。

入学資格 市内在住で4年間継続して通学できる40歳以上のかた（再入学不可）

募集定員 100人（60歳以上80人 40歳以上～59歳以下20人）
（年齢は平成20年4月1日現在。定員を超えた場合は抽選）

願書受付 平成20年4月1日（火）～7日（月）午前9時30分～午後4時
中央公民館へ本人が持参

学 習 主に木曜日（学習日数 年間36日程度）講義、話し合い学習、校外学習など

修業年限 4年 **費 用** 年額10,000円（材料費、保険料などは別途負担）

* 詳しくは、入学案内・入学願書が市内の公民館・図書館にありますので、ご覧のうえ応募して下さい。

お問い合わせ 佐倉市立中央公民館（第2・第4月曜日は休館日です）

電話 485-1801

URL <http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuou/index.htm>

さくら道

昨年は藤原正彦の『国家の品格』という本が話題になり、なにかというところの「××の品格」という言葉が新聞や雑誌で目に付きましました。

文章にも品格というものがあり、「公序良俗」に反していないことは無論、それに加えて、題材に対する筆者の感動や、深い思い、考え方などを、心を込めて素直に純な気持ちで

文章が書かれていることが大切だと思えます。

心を込めて真剣に、自慢も無いもなく書いた文章は、筆者の年齢や、地位や境遇に関係なく、かつまた、文章の巧拙にも関係なく、等しく、それを読んだ人の心に共感を与え、得心させるものを持っています。私はこういったものが、「文章の品格」だと思っています。



あがとき



春まだ浅い三月。この季節になると、「...季節はずれの雪が降ってくる...」の歌詞、フォークシンガー・イルカの「なごり雪」をつい口ずさんでしまいます。

今月も沢山のご投稿ありがとうございました。紙面の都合上、四名の方の作品を掲載させていただきます。

廣吉さん、山崎さん、小西さん、そして山崎さんの作品を拝

読し、それぞれに私も感じたこと、思い起こしたことがあります。堀田正睦公の藩政改革や開国の偉業へ改めての尊敬の念、九十四歳で亡くなった明治気質の父親のこと、クメール・ルージュ政権下の警備厳重なカンボジア・プノンペン空港へ降り立ったときの異様な緊張感の記憶、そして念願の佐倉市民カレッジへ入って有意義な一年が過ぎようとしている現在。

ご投稿ありがとうございました。これから皆様からのご投稿をお待ちしています。
(原田)